

第2回  
テーマ

# 新しい一次産業の可能性

# 滋賀バイオプロジェクト創出サロン

研究者と企業が気軽に意見交換をすすめ、技術シーズとマーケットニーズを結びつけて、新しいビジネスにつながるバイオプロジェクトを立ち上げるきっかけづくりがこの「滋賀バイオプロジェクト創出サロン」です。

研究者や企業のシーズ・ニーズ、事業の方向性などについて発表いただき、気軽な雰囲気での質疑応答を通じて、プロジェクト創出を目指します。

今年度は新しい1次産業の可能性をテーマに、様々なシーズや現状、市場の可能性といった視点から、研究者・企業等からお話いただきます。興味のある参加者とはプロジェクトとして継続的に勉強会の実施などを行っていきます。ご興味のある方は是非ご参加ください。

日時 2015年 **12月24日** **木**  
15:00 ~ 17:30 (開場 14:30 ~)

会場 **長浜バイオ大学** 命江館1階 大会議室  
(JR 田村駅下車すぐ)

会費 **無料**

## プログラム

▶ **研究者発表** 15:10 ~ 17:10

「コメだけに頼らない水田農業に対して植物科学は何ができるか」

● 発表者 **大門 弘幸 氏**  
(龍谷大学農学部資源生物科学科 教授)

「微生物・酵素バイオテクノロジーの1次産業との連携に向けて  
~地域ブランド化の可能性~」

● 発表者 **三原 久明 氏**  
(立命館大学生命科学部生物工学科 教授)

▶ **質疑応答** 17:10 ~ 17:30



# 講演要旨

## コメだけに頼らない水田農業に対して植物科学は何ができるか

日本では、農耕地面積の54%を水田が占め、滋賀県では92%と高くなっています。全国で850万トンのコメを生産する一方で、一人のコメ消費量は年間60kgを下回り、一方で飼料用トウモロコシを1000万トン輸入しています。ダイズやコムギの自給率は低く、これまで水田農業の高度化が久しく叫ばれてきました。

各地域の特性に見合った農作物を転換畑に導入して、若手就農者のモチベーションを喚起し、6次産業化を進め、地方創成を目指すといった方向に対して、日本の植物科学者は何ができるのか、あるいは何をすべきなのか、自問自答の毎日です。

本講演では、水田転換畑における作物生産の試みを紹介し、皆さんと情報交換したいと思います。

## 微生物・酵素バイオテクノロジーの1次産業との連携に向けて ～地域ブランド化の可能性～

微生物や酵素を利用したバイオテクノロジーは、発酵や抗生物質生産などで古くから利用されてきた長い歴史をもちます。現代では、高付加価値の医薬品原料の生産や環境配慮型のバイオプラスチック生産、バイオ燃料生産などにも応用展開されています。本講演では、我々が取り組んでいる、微生物や酵素を活用した物質変換に関する研究の一端を紹介した上で、特に地域の1次産業と先端バイオテクノロジーとの連携から新たな地域ブランドの創出に繋げる可能性を探りたく思います。

問い合わせ先



一般社団法人バイオビジネス創出研究会

TEL: 0749-65-8808 FAX: 0749-65-8858 MAIL: info@biobiz.jp

## 参加申込書

申込締切 12/21

ふりがな 氏名	所属名 役職	
ふりがな 氏名	所属名 役職	
ふりがな 氏名	所属名 役職	
団体名		
住所 (〒 - )		
Tel	Fax	E-mail

※ご記入いただいた個人情報は、当イベントの参加の確認、主催者からの各種催し物のご案内など情報の提供や催し物等に参加いただいた方の調査分析にのみ使用いたします。

FAX 0749-65-8858 でお申込みください。